

臨床放射線

編集委員

今井 裕
後閑 武彦
栗原 泰之
橋本 順
森 壘
中村 和正

編集協力委員

畠中 正光
小川 恭弘
松永 尚文
森 宣
村田 喜代史
淡河 恵津世
西山 佳宏

編集後記

▶ 本号の特集は、「専門診療科に繋げる一遺伝性疾患の鑑別診断」を取り上げました。これまで臨床においては、患者の家族歴、あるいは個人の重複癌や多重癌などの既往からはじめて家族集積性を有する遺伝性疾患に気づいた経験も少なくありません。また、放射線科医が各領域にみられる特徴的な画像所見から遺伝性疾患の可能性を指摘することも多くありました。一方、最近では次世代シーケンサー技術の進歩により遺伝子配列の解析が容易にできる時代となり、遺伝性疾患に対する考え方や取り組み方も大きく変化しています。このようなゲノム医療の進化をふまえて、本特集では遺伝性腫瘍のほか、各領域における遺伝性疾患について、各専門家の先生方に最新の遺伝子疾患の診断についてまとめて頂きました。今後、このような遺伝子情報の解析をふまえての新しい治療法の開発や新しい医学的管理が行われる中で、あらためて遺伝子疾患における画像診断の重要性を理解しておきたいと思います。また、近い将来には、遺伝子情報も人工知能（AI）を用いた医療に活用されることは間違いなく、これまで以上に我々の画像診断に馴染みの深い重要な情報になると思います。読者の皆さまも、ぜひ一読ください。

▶ 新型コロナウイルス感染症が日本でも流行しはじめ、我々の日常生活にも多大な影響を与えています。昨年12月頃に最初は、中国湖北省武漢市において病原体不明の肺炎と指摘され、やがて多くの患者が家畜や野生動物を扱っていた海鮮市場に出入りしていたことがわかりました。コロナウイルスの感染源は、現在のところコウモリとみられており、コウモリからさらに野生動物、例えばタケネズミやアナグマ、あるいはヘビなどに感染し、これらの動物を扱っていた市場で、野生動物の糞や唾液からヒトへ感染した可能性が指摘されています。このような疫学的な解析と同時に現在では、遺伝子解析によりウイルスの塩基配列を解読し、進化的に関連するウイルスの系統樹を作成することもできるとのことです。コロナウイルス感染症の一日も早い終息を心から願っています。

今井 裕

「臨床放射線」第65巻第3号

2020年3月10日発行（毎月10日発行）

定価（本体2,600円＋税）

年間購読料金 定価（本体39,700円＋税）

[年間13冊（臨時増刊号を含む）の誌代]

年間予約購読者に限り送料無料

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14

TEL 03 (3811) 7165 編集部直通

TEL 03 (3811) 7184 営業部直通

FAX 03 (3813) 0288

ホームページ <http://www.kanehara-shuppan.co.jp/>

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社

広告申込先 福田商店 TEL 06 (6941) 5600

FAX 06 (6941) 5605

本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

JCOPY <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつと事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088、FAX 03-5244-5089、e-mail info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。